

読者投稿欄「なまず通信」

神奈川県温泉地学研究所観測だより（以下、観測だより）では、読者の皆さまからの投稿欄を設けています。掲載記事に関するご意見・ご感想はもとより、皆さまが地震や温泉などについて身近に感じている事柄や、温泉地学研究所に対する叱咤激励などいろいろとお寄せいただければと思います。

○原稿は楷書体でお願いします。

○出来るだけ多くの方のご意見を掲載させていただくため、お一人様の文字数を全角で200字程度までとさせていただきます。

○紙面や編集の都合上、お寄せいただいた全ての原稿を掲載出来ない場合や、お送りいただいた文章を当所において一部編集して掲載させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

○お送りいただいた個人情報に関しては、当所において適正に管理するとともに、観測だよりのみに使用し、

目的外使用は一切行いません。

○投稿形式は自由ですが、このページ下段に簡単な投稿様式を用意しましたので、ご利用下さい。

（四角枠で切り取って、普通はがきに貼れるサイズとなっています。）

送付先について

郵送・FAX・フォームメールでお受けしています。宛先は下記までお願いします。

郵送：

〒250-0031

神奈川県小田原市入生田586

神奈川県温泉地学研究所

編集部会 宛

FAX：0465-23-3589

フォームメール：https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form_mail/request_form.php

「お問い合わせ内容」のところに
ご記入下さい。

お便りのご紹介

前号（第65号）を送付した際に、読者の皆様からのご意見やご感想をお寄せいただきました。掲載可としていただいたハガキやメール中から一部を紹介させていただきます。

兵庫県 荻野様；

箱根火山大涌谷警戒レベルが引き上げられ、増々大変ですね。所員の方々、お忙しく仕事に追われる毎日と思います。くれぐれも健康に留意してお努め下さい。

埼玉県 石川様；

TV、新聞等で箱根が大変とお思います。風評があまり広がらないよう祈るばかりです。毎回、観測だよりを楽しみにしております。大変な時期ですが研究所の職員皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしております。

お名前：

ご住所：〒

(TEL： — —)

ご意見等：

お名前・住所（市町村名まで）の観測だよりへの掲載について

掲載可 匿名希望 その他(具体的に：)

千葉県 匿名希望様；

箱根の噴火レベルの引き上げなど、温地研の活動はたいへんと思います。浅間山、富士山と関東地区への影響のある火山活動や東海地震、南海地震、活断層の情報などを得ようとしています。温地研の活動に期待しております。

秋田県 小松様；

資料（写真・図表）が豊富で、それに基づいてわかり易く説明されていて、素人の私でも理解できるように親切にご配慮されていると感謝いたします。貴重な資料です。

埼玉県 安原様；

いつも興味深く読ませて頂いております。今後ともよろしく願います。

編集後記

観測だより第65号の読者の方々からお送りいただいたはがき・メール・FAX等のご意見・ご感想などを掲載させていただきました。頂いたお便りの一部を抜粋させていただいたり、掲載できなかったお便りが多数ありましたことをお詫び申し上げます。

前号を送付した時期もあり、箱根の状態や、当所の職員をご心配頂いたお便りを複数頂戴いたしました。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、報道等でご存じかと思いますが、昨年は、私たちが観測に力を入れてきた箱根が大きく注目された一年でした。2015（平成27）年4月下旬より、箱根火山では、観測史上最大の群発地震活動が発生しました。そして、6月末には、観測史上初めてとなる水蒸気噴火も経験しました。箱根は、首都圏から近い主

要な観光地ということもあり、テレビや新聞等で大きな注目を集めました。一時期は、毎日のように、温泉地学研究所の観測データが、テレビや新聞等で報じられるような事態となりました。一部の職員も火山活動の状況の解説等で、テレビ・新聞の取材の対応で追われるような状況もありました。

現在は噴火警戒レベルも1（活火山であることに留意）に下がり、大きく報道がされることは無いですが、本稿執筆時点において、大涌谷では、依然として活発な噴気活動、高濃度のガスの放出が継続しており、一般の方の立入はできない状況が続いています。

当所の地震・火山の担当職員は、4月の群発地震活動開始以降、11月に噴火警戒レベルが1に戻るまで、土日・祝日も交代で出勤し、対応を行いました。また、この火山活動に際し、臨時的な観測網の整備等を行い、その対応にも追われることとなり、これまでに無い慌ただしい数ヶ月を経験しました。

今号の掲載記事では、多くのトピックス記事や観測データで、この箱根火山の活動について触れています。2015（平成27）年の活動に際し、当所の職員がどのような対応してきたか、その一端に触れて頂けるかと思えます。箱根の火山活動関係の記事が多くある分、ページ数も例年よりも多くなり、読み応えのある内容になっているかと思えます。

また、今号では、箱根ジオパークの拠点施設『箱根ジオミュージアム』の学芸員である山口珠美さんにもトピックス記事をご寄稿頂きました。箱根ジオミュージアムは、2014（平成26）年4月に大涌谷に新たにできた施設ですが、昨年の火山活動で、大涌谷に立入できなくなったため、臨時休館を余儀なくされています。

その際にどのような活動をしてきたかについてご紹介を頂いています。

箱根は、豊富な温泉資源や良質の石材、そして豊かな自然に恵まれた地域です。これらは、箱根が火山であることによってもたらされた『火山の恵み』とも呼べるものです。火山による恵みと災害は表裏一体のもので、箱根火山では、2015（平成27）年の水蒸気噴火を除けば、最後に噴火があったのは、地質の記録から12～13世紀頃とされていますので、火山活動による災害の記憶は、地域の方々には無かったはずで、火山がもたらす恵みだけでは無く、自然災害にも目を向け、新たな視点で、火山との共生を考える必要があるのかもしれない。そのような観点においても、箱根ジオパークの活動が、今後、重要な意味を持つかも知れません。

毎回のことになりますが、観測だよりを発行できるのは、多くの方々のご協力があったことです。なまの会の観測結果は、会員の方々による継続的なご尽力あつての結果であると言えます。また、地殻変動や地震の観測の結果は、観測機器を置かせて頂いている施設の方々のご理解とご協力があったことと言えます。加えて、昨年は、箱根火山の活動活発化に伴い、観測の強化を図りました。緊急的に観測点を設置させて頂いた土地の所有者の方、管理者の方はもちろん、事務手続きなどで多くの方にご尽力を頂きました。なまの会の会員の皆様、観測機器を置かせて頂いている土地・施設の皆様、事務手続きにご尽力いただいた皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。引き続き、お手に取って頂けるような観測だよりの誌面を作ってまいりたいと思います。（道）